

小野市議会 8

だより Ono city assembly 2007/No.128



美しい地球、緑と水の大地



緑が映える市庁舎前広場

温暖化ストップ

地球温暖化問題は、世界中で取り組むべき環境問題として、いま、早急に手を打たなければならぬ人類の課題です。

小野市議会では、温暖化対策に、何かをしなければならぬと考へ、小さなことから取り組みをはじめます。里山に木を植え、川を清掃し、緑を育てます。エコスタイルで消費電力を抑えます。自転車、徒歩で動きます。買い物には「マイバッグ」を、食事には「マイ箸」を使わない「マイ箸」運動を進めます。

わたしたちの一步は、小さなながら、市民のみなさまのご理解とご協力により、大きな一歩となって広がっていくことを期待しています。

地球温暖化に、
小さいながら、まず、一歩

第349回 6月定例会

一般質問

- ・藤原 健 ・井上日吉
- ・吉田成宏 ・岡嶋正昭
- ・鈴木元 ・松井精史
- ・山中修己 ・川名善三

議案質疑

- ・河合俊彦 ・竹内 修

議会傍聴

6月定例会 55人

6月定例会

一般質問発言者

藤原 健 議員

- ・ KDDI用地買収見込み、その後について
- ・ 「いじめ」解決についての、部局移転のその後について
- ・ 小野市議会議員の構成の変化を、市長は如何に考えておられるか

井上日吉 議員

- ・ 情報開示について
- ・ 義務教育期間の医療費の完全無料化の実現について
- ・ 信頼される市民病院について

吉田成宏 議員

- ・ 全国学力・学習状況調査について
- ・ 当面の農政課題と行政手法のイノベーションについて

岡嶋正昭 議員

- ・ 商工業者等支援について
- ・ 小野市商店街周辺の活性化について

(一般質問・質疑は発言した議員が編集しました)

鈴木 元 議員

- ・ 多重債務者救済への行政の役割について
- ・ 北播磨の公立病院再編の動きについて

松井精史 議員

- ・ ヒューマンライフグループについて
- ・ 地デジ対応共同アンテナの設置について
- ・ 特別支援学校高等部の設置について
- ・ 小野市の年金納付記録について

山中修己 議員

- ・ 北播磨中核病院構想について
- ・ グループ制の総括について
- ・ らんらんバスのデマンド試行について

川名善三 議員

- ・ 小中学校における公的年金教育について
- ・ 改正消防法に基づく住宅用火災警報器等の設置義務について
- ・ 公用車へのAEDの設置について

質疑発言者

河合俊彦 議員

- ・ 議案第53号小野市一般会計補正予算について(観光費3億4270万円の具体的内容ほか)

竹内 修 議員

- ・ 議案第53号小野市一般会計補正予算について(障害福祉費729万円の具体的内容ほか)

第349回 6月市議会定例会

市議会は、6月定例会を11日から27日までの17日間開催しました。市長からは、議案第52号は専決処分の承認、議案第53号は一般会計補正予算、議案第54、55、56号は条例の一部改正、議案第57号は人事案件の6議案が提出され、原案どおり可決・同意しました。



市民のみなさま！議会傍聴にお越しいただきありがとうございました。9月の定例会も、ぜひ、ご覧いただき、ご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

ご意見をお待ちしています。 議会のメールアドレス：gikai@city.ono.hyogo.jp



新生クラブ

藤原 健 議員

KDDI用地買収見込みについて

質問 KDDI用地の買収見込みをお聞きます。

答弁 KDDI用地については、街地に近接する緩やかな丘陵地であり、小・中学校連携の文教ゾーン構想や、野球場、陸上競技場、サッカー場、キャンプ場等のスポーツ・レクリエーションゾーン構想など「将来の小野市の発展のための貴重な財産になる土地である」と考え、取得交渉を進めてきました。

当該土地には、KDDIが用地を取得された際の毛上権や買戻し特約の課題があり、「地元黒川町の同意と協力なくしてはこの構想の実現は不可能である」として、その交渉を第一の課題として進めてきたところであります。
度重なる折衝の結果、東山地権者

会総会が4月28日に開かれ、毛上権の放棄、土地取得の同意が決議され、黒川町からも同様に同意をいただくことができました。

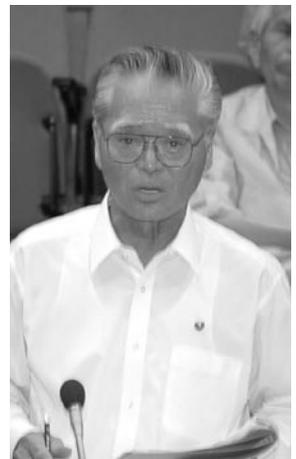
これを受けて、今後は、KDDIと価格交渉を最重要とした課題整理に移って行きますが、今年中には成果がでるよう交渉いたします。
(総合政策部長)

質問 市議会議員の減少について市長の考え方は

答弁 第341回定例会で議員2名の削減があり、現在18名の定数になっています。

市民の声としては、「議員の数は10名程度が望ましい」との意見もあり、私もそのように思う一人であります。

議員として果たすべき役割を、もう一度原点に立って見直し、議会と執行機関とが議論を深めることが必要かと思えます。
(市長)



新生クラブ

井上 日吉 議員

情報開示について

質問 情報の防御策について

答弁 情報化社会が進展する中で個人情報等個人の権利、利益を保護することは、行政の責任として多大である。個人情報の適正な取り扱いを確保するために、マニュアルを整備しています。今後も、市民の皆さんが安心してIT社会のメリットを享受できるように、個人情報の適正な取り扱いに努めます。
(副市長)

質問 市長の退職金はいくら

答弁 条例により市長は1期4年間で19・8528月分、市長の給料月額が98万円でありますので単純に計算しますと1,940万円程度になります。
(総務部長)

質問 正規職員数とその他職員数は?

答弁 小野市の病院、消防を含む全職員数は560人、定数外職員が206人であり、その他市職員ではありませんが指定管理者である都市施設管理協会やNPO等の方が市の業務も行っています。
(総務部長)

質問 教育現場の苦情の受付について

答弁 本市の学校現場への要望、苦情は118件です。内容を分類しますと①地域での生活や遊び方が悪いとか下校時の態度とか、②敷地内の樹木の処理やトイレの改修 ③担任の教科指導や生徒指導に関する事です。子供に関する事案については即日解決にあたり、学校だけでは解決できない問題は学校危機管理マニュアルや問題行動対応マニュアルで組織で対応しています。(教育次長)



新生クラブ

吉田成宏議員

全国学力・学習状況調査について

質問 43年ぶりに行われた、全国一斉学力テストの実施方法・目的・対象学年・教科と小野市の対応について伺いたい。

答弁 このテストは、国際的に見て学力や学習意欲が低下している現状から文科省が義務教育の質を保証し更なる向上を図るため、小6と中3の全児童生徒を対象に国語・算数・数学について知識と活用に関する問題で出題実施しました。市としては、「今回の調査内容が学力を測定する尺度としてでなく、子供達がしっかりと読んで理解し、考えて結論を出すと言う学習の重要な側面を図るものであり、結果を分析し今後の教育改善の参考とする」ことを前提に実施しました。

現在、小野市はこれからの国際社

会に生きる教育課題を視野に、「おの検定」「小中連携教育」「9カ年の英語教育」「サイエンス教育」等川島教授の「脳科学理論」を基礎に教育改革を展開中であり、調査結果と新学習システムとの相関関係を分析し、教職員の意識改革や資質の向上に努めるなど効果的に活用したいと考えます。

(教育長)

その他の質問

■当面の農政課題である担い手確保や集落営農進捗状況、ポジティブリストの遵守、バイオエタノール燃料普及の余波について行政の取り組み姿勢を聞く。

■主要地方道三木穴粟線粟田橋周辺と小野香寺線の改良整備計画の進捗状況を質す。81号線では、通学路の安全確保のため、ルート変更の強い指摘があった。

(答弁者は市長、地域振興部長)



市民クラブ

岡嶋正昭議員

商工業者等支援について

質問 市内商工業者等の支援対策を伺います。

答弁 商工業活性化計画の基本指針である「心豊かな産業を創造するまち小野」を実現するため、商工業振興対策事業「産・学・官連携事業」を実施しています。

具体的には、ものづくり・デザイン・マーケティング等の研究の結果、木工グループは「アートなそろばん部会」・金物グループは「工業会」を設立、一定の成果は出ています。また経営革新塾では、専門家による研修会を開催しています。

(地域振興部長)

質問 中心市街地まちづくり協議会の活動について

答弁 まちづくり協議会は、本年1月に中心市街地の都市基盤のあり方及びまちづくりの将来像を計画するために設立されました。

周辺自治会・地域づくり協議会・商店街連合会・商工会議所・小野市より選出の28名の委員から構成され、専門家のアドバイスにより、身近な当面の課題について活発に議論されているところです。(地域振興部長)

質問 神戸電鉄小野駅周辺の駐車場について

答弁 電鉄小野駅周辺の一時預かり駐車場設置については、市としても、買物など、日常、気軽に利用できることから、必要な施設であると考えます。今後、神戸電鉄とも協議しながら検討してまいります。

(総合政策部長)

小野商店街周辺の

活性化について

多重債務者救済への 行政の役割について

質問 今や、国民の9人に1人が消費者金融の債務者で、55人に1人が多重債務に陥っている。格差社会が拡大し、国民の多重債務が深刻化する中で「貸金業法」が改正され、政府の「多重債務者対策本部」は、有識者会議の諮問をもとに「改善プログラム」を策定した。背景には、多重債務が要因とみられる家庭不和、離婚、DV、児童虐待、一家離散、夜逃げ、自殺、金めあての犯罪など、国民生活破壊が放置できない状況となっており、国・地方自治体あげた取り組みが求められている。先だって大津市で、自治体職員向け「多重債務対策支援講座」が開催され、小野市からも職員2名が受講している。市の取り組みについて、3月定例会で質問したが改めて伺いたい。

答弁 金融庁が「多重債務者相談マニュアル」を全自治体に配布するなど、新たな取り組みが始まっています。市としても、相談窓口の充実強化、関係機関との連携、ネットワーキングの強化など、市民の目線に立って推進いたします。

(市民安全部次長)

質問 多重債務者で各種相談窓口

日本共産党
鈴垣元議員

来る人は2割程度、残り8割をどう掘り起こし問題解決に導くかが課題とされている。その点行政は、市民にとって身近な存在であり、公共料金滞納状況も把握できる立場にある。親身になって相談に乗れば大きな効果が期待できる。

答弁 福祉、税務課等との連携システムは確立しています。また、このような取り組みを市民に知ってもらうため、庁内の各窓口で資料を設置するなど、相談しやすい環境づくりに努めます。

(市民安全部次長)

質問 多重債務者発生予防のための金融経済教育の強化が不可欠とされているが。

答弁 学校教育では、中学3年の社会科と家庭科で「かしこい消費者」になるための学習を行なっています。また、高校の家庭科で多重債務問題について取り扱うことが、現在検討されています。社会教育では、継続的な啓発活動が有効と考えています。

(教育長)



新生クラブ

松井精史議員

地上デジタル対応

共同アンテナの設置について

質問 共同受信施設のデジタル対応について

答弁 全国どこでもデジタル化の恩恵を受けることができるよう対応すべきであり、助成措置についてもデジタル化で生じる格差解消には前向きに支援をいたします。

(副市長)

ヒューマンライフグループについて

質問 4月に発足したヒューマンライフグループの活動について

答弁 いじめ担当、人権啓発推進、男女共同参画推進の3グループがあり、常に一体として、また、教育部門、福祉部門と連携を図りながら市民の安全安心を推進していきます。

また、電話相談窓口「ONNOひまわりほっとライン」は、相談しやすい環境づくりに努めているところです。

(ヒューマンライフ担当市民安全部次長)

特別支援学校高等部の設置について

質問 高等部の設置が望まれていますがどうですか

答弁 来年4月に県立のじぎく特別支援学校に高等部が開設予定です。

(教育次長)

小野市の年金納付記録について

質問 小野市の取り組みはどうか

答弁 小野市の年金記録台帳は、すべて保管しており、この台帳をもとに相談業務に活用しています。先般このことがテレビに取り上げられ評価されました。

(市民福祉部長)



市民クラブ

山中修己 議員

グループ制の統括について

質問 グループ制を導入して4年が経過し、総合政策部、水道部、市民安全部、市民安全部のヒューマンライフグループと拡大されてきました。この辺で総括し、組織全体をどうするか検討する時期にきていると思いますが、如何。

答弁 この制度の本来の狙いは公務員制度改革と平行していくという遠大な想いにあります。役職は年齢にこだわらない、仕事の難易度によって給与差を設け、能力と意欲のある人は難易度の高い職種に就き、成果をあげることで高収入を得る、このような制度を目指しております。現行の公務員制度とは180度異なりますが、きつと公務員の世界もこのような世界になると確信していますし、小野市はこのような理念を持って、進んでいきます。(市長)

らんらんバスの デマンド試行について

質問 満3年を迎えたららんらんバスが、県下初のデマンドバスの試行を始めました。このデマンドバスの将来構想について伺います。

答弁 らんらんバスの利用状況は、年々増加してきております。現在、3台で市内10ルートを運行していますが、「便数や運行日を増やしてほしい」「運行していかない施設へ行っていない」などの要望があり、現在のらんらんバス運行を補完し、併せて市内の公共施設の利用促進を図るため、6月から予約制の「デマンドバス」の試行運転を開始いたしました。今回の試行は週1回の運行ですが、今後利用状況や利用者の声を聞きながら、来年度の本格運行に向けて、タクシー業界との調整、運行日数、車両のサイズ、台数等小野市にあったデマンドバスの形を検討してまいります。(総合政策部長)



公明党

川名善三 議員

小中学校における 公的年金教育について

質問 小中学校における年金、社会保険制度に関する教育の現状及びその必要性について

答弁 ご指摘とおり、児童生徒が知らないために将来不利益をこうむることがないように義務教育で、年金や社会保険制度に関する教育を行う必要があります。小学校は6年社会科「わたしたちのまちの福祉」で、市の政治から基本的人権の尊重について学習を行います。中学校は3年生の社会科「社会保障と国民の福祉」で、公的年金のしくみと必要性について指導しています。小学校で初めて公的年金にふれ、中学校において、公的年金制度の概要について学習しているのが現状です。(教育長)

改正消防法に基づく住宅用 火災警報器等の設置義務について

質問 市営住宅の設置対策について

答弁 すべての市営住宅に設置を計画しており、国庫補助金を活用し平成23年の法期限内に設置を完了します。(地域振興部長)

公用車へのAEDの設置について

質問 らんらんバスや安心安全パトロールカーへの搭載について

答弁 らんらんバスについては乗客に迅速に救命措置ができることから、すでに整備することになっております。運転手対象講習会二回目を6月に計画しております。安全安心パトロールカー、市バス・社協のバスも同様の対策が必要と考えております。(総合政策部長)



議案質疑

市民クラブ

河合俊彦議員

一般会計補正予算

質疑 観光費3億4,270万円の
具体的内容について

答弁 3億4,270万円のうち、
3億円については、白雲谷温泉ゆび
かに新しく岩盤浴施設、観光交流施
設を増築しようとする事業経費であ
ります。

施設の規模としましては、延床面
積約700平方メートル、①温浴部
分には、18種類の天然石による岩盤
浴施設（女子18床、男子4床、計22
床）

②交流部分には観光交流スペースや
地元特産品販売コーナーを計画いた
しております。

なお本事業は、国の補助制度を活
用し整備しようとする事業で、平成
20年5月オープンを目指し進めて
おります。

残りの4,270万円でありま
す

が平成18年度の使用料収入から、管
理運営委託料を差し引いた額、約
4,270万円を白雲谷温泉運営管
理基金として計上するものです。
(地域振興部長)

質疑 幼稚園費、10万円の具体的内
容について

答弁 県では、生涯にわたる人間形
成の基礎が養われる幼児期に環境や
生命を大切に思う「こころ」を育む
環境学習が必要との認識から幼稚園
保育園での環境学習に対し環境学習
に要する経費について一園、一年限
り10万円を上限として補助されるこ
とになりました。

本年度は、わか松幼稚園において、
作物や植物の栽培、小動物の飼育な
ど自然体験学習を実施することから、
事業に要する経費として予算措置す
るものです。
(教育次長)



議案質疑

公明党

竹内 修議員

一般会計補正予算

質疑 障害福祉費729万円の具体
的内容について

答弁 ①視覚障害者用活字文書読み
上げ装置3台（本庁舎・市民病院・
図書館）の整備

②障害者地域生活・相談支援セン
ター初年度設備（パソコン・カウ
ンター・机・イス等）の購入

③発達障害児個別療育支援のための
療育器具（K式発達検査器具・療育
評価用録画装置）の購入

④授産工賃の収入控除引き上げに伴
う勤労意欲促進給付金の支給

⑤筋ジストロフィー患者の医療型福
祉施設利用者負担の軽減給付

⑥障害福祉サービスの利用者の新た
な負担軽減策や、本市独自の追加
支援策などに対応するためのコン
ピューターシステム改修経費です。
(市民福祉部長)

質疑 小学校国際理解モデル事業の
具体的内容について

答弁 県では、本年度より小学校国
際理解推進モデル事業が実施、小野
市では、下東条小学校が指定されま
した。小中9カ年を通じた英語活動
カリキュラムの作成、ALT・地域
人材等の実践的指導法確立のための
研究、外部への情報発信などを行
います。
(教育次長)

質疑 環境体験事業経費の具体的内
容について

答弁 県では、本年度より小学校3
年生を対象に地域の方の協力を得な
がら自然観察や栽培飼育などの体験
型環境学習を行う環境体験授業が実
施されることになり、推進校に指定
された中番小学校では、東条川の水
生生物の観察や水質検査を、河合小
学校では、里山「夢の森」の自然観
察や校区内の田で大豆栽培を行いま
す。
(教育次長)

総務文教常任委員会付託議案

- ・ 議案第53号 平成19年度小野市一般会計補正予算
- ・ 議案第54号 小野市税条例の一部を改正する条例の制定について
- ・ 議案第56号 小野市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について



民生保健常任委員会付託議案

- ・ 議案第52号 専決処分を求めることについて
(平成19年度小野市老人保健特別会計補正予算)
- ・ 議案第53号 平成19年度小野市一般会計補正予算



地域振興常任委員会付託議案

- ・ 議案第53号 平成19年度小野市一般会計補正予算
- ・ 議案第55号 国営加古川西部土地改良事業負担金徴収条例の一部を改正する条例の制定について



6月定例会提出議案の審査付託について、25日、総務文教、民生保健、地域振興各常任委員会を開催しました。審査付託議案は、議案第52号から第56号までの計5議案であり、市当局から詳しく説明を受け慎重に審査をいたしました。

○総務文教常任委員会（堀井算満委員長）に付託された3件の議案について、○民生保健常任委員会（加島 淳委員長）に付託された2件の議案について、○地域振興常任委員会（藤原 健委員長）に付託された2件の議案について、それぞれの常任委員会は、審査をする過程において、とくに指摘事項、反対討論はなく、全会一致で可決すべきと決定しました。

● 常任委員会審査報告 ●

◇ 常任委員会の複数性 ◇

現在、小野市議会では、3つの常任委員会を設けています。議員が就任できる常任委員会は、これまで一つとされてきましたが、平成18年の地方自治法改正で、条例で決めれば、2つ以上の常任委員会に就任できるようになりました。議員は、いまのところ、これまでと同様1人1つの常任委員会に就任しています。

常任委員会では、それぞれ受け持つ部課を専門的に審査することを目的としていますので、1人の議員の担当分野が広くては委員会の任務を果たすことが困難になるため、担当する分野は広範囲でないほうがいいと考えています。行政は社会とあいまってますます複雑化しています。ある程度専門的知識と経験が必要であることも考えに入れ、1人1つの委員会に就任することにいたしました。

常任委員会行政視察研修

全国の議会では、常任委員会が、他市の議会・自治体の状況を調査するために、議員の行政視察研修を実施しています。小野市議会の総務文教、民生保健、地域振興の3常任委員会では、下記の内容と日程で視察研修を実施することになりました。研修の成果は、本会議や常任委員会の活動に活かされていますが、一方では、市民のみなさまから明確な成果が見られないとの批判があるのも事実であります。視察研修をより効果のあるものとするために、各議員は、次の項目に従い、研修を実施いたします。

1. 研修の目的を明確にする。
2. 事前に情報を入手して聞くべき質問を用意する。
3. 視察の結果、参考となる事項を議員、市長、担当部局に報告する。
4. 視察の成果を本会議、委員会に反映させる。
5. 視察報告書は、市民の求めに応じて公開する。
6. 本会議に、委員長報告書を提出し、「小野市議会だより」「市議会ホームページ」に掲載する。

■総務文教常任委員会(掘井算満委員長) 内容・日程

- 7/17 恵庭市議会 「第4次行政改革推進計画 柔軟で活力ある行政体制の確立
①機能的な組織 ②定員管理 ③給与制度 ④人事評価」
- 7/18 札幌市議会 「行政評価制度 結果・外部評価」
- 7/19 旭川市議会 「第7次総合計画について 基本目標・重点目標・成果指標・施策の方向」

■民生保健常任委員会(加島 淳委員長) 内容・日程

- 7/23 新潟市議会 「信濃川浄水場の事業概要」
- 7/24 見附市議会 「健康運動事業の事業概要」
「小規模多機能型居宅介護美沢」現地視察
- 7/25 小千谷市議会 「中越大震災ネットワーク
おぢや事業の事業概要」
「長岡市山古志村」現地視察

※7/16 新潟県中越沖地震発生のため視察を延期しました。



下東条コミセンで研修に励む総務文教常任委員

■地域振興常任委員会(藤原 健委員長) 内容・日程

- 7/23 仙台市議会 ①アグリビジネス支援事業
②地産地消
- 7/24 花巻市議会 「①トータルアドバイザー制度 ②産業施策」
「花巻たて坂通り街なか再生事業推進協議会の活動」現地視察
- 7/25 奥州市議会 「蔵の街・音・水・緑のまちづくり」



◎ 託児コーナー ◎

お子さまをお預かりします 9月20日(木)、21日(金)

9月定例議会にも「託児コーナー」を開設しています。質疑・一般質問がおこなわれる9月20日(木)、21日(金)の2日間で、いずれも10時から正午までの2時間です。1歳から就学前までのお子さまの保護者の方が対象です。ご希望の方は、9月13日までに、議会事務局へお電話(電話番号63-1006)でお申し込みください。

託児のお世話をしていただくのは、託児ボランティアグループ・小野託児サークル「このゆびと〜まれ♪」のメンバーのみなさまです。
(当日、託児の受付はできません。あらかじめお申し込みくださいますようお願いいたします)

く知っていただくために

地方分権や市町村の合併などで、議会をはじめ市の行政全体に大きな変化の波が押し寄せています。地方の行政が変わりつつあることを、地方議会の現状を通して、市民のみなさまにご理解とご協力をお願いいたしたいと存じます。



議員研修会「方針管理について」

■地方議会は、制度上、二元代表制（市長と市議会議員を、ともに市民が直接選挙で選ぶという制度です。これに対して国会議員が組織した国会は、総理大臣が内閣を組織する議院内閣制をとっています）として位置づけられています。

地方議員は、民主主義の基本である議会の構成員でありながら、その活動が充分市民に伝わっているとは言いがたいこともあり、議員活動や身分についてお伝えしたいと思います。

■現代では、行政が複雑になり、それとともに地方議員は、議会での会議、研修、情報収集、また地域住民の意見を吸い上げるなど、活動範囲が多岐にわたるためにほぼ毎日が議員活動に費やされています。ほかに職業を持ちながら議員活動を行うことが困難なほど活動が広範囲に、より専門的にわたってきているからです。

戦前の地方議員は、名誉職として無報酬と規定されていましたが、戦後、この議員の身分が明確に決められませんでした。

現代では、ますます議員の専門化が進んでいるために、議員の法的な身分の確立が求められるようになってきました。

■議員の法的な問題は、市民もこれまであまり関心を持つことがありませんでした。

議員も自らのことであるために、あまり触れようとしないところもありました。

議会にとって基本というべき議員の地位や処遇は、地方自治法制定以来、本格的に論議されずに現在に至っています。



議員研修会「議事録検索システム」の操作について

議会と議員の現状をよ

■議員は、非常勤の特別職公務員（市長は常勤の特別職公務員）といわれています。

6、9、12、3月の年間4回、定例議会が開催されますが、そのほかの月についての活動はどう評価すればいいのか、また、公的活動は何時間で、そして、報酬はどのくらいが適当なのか、これらを明確にすることが必要になっています。

議員の活動には、時間的な制約はありません。勤務時間も決められていないのです。

しかしながら、市民を対象にした議員活動は無限にあり、議員は市民のために、働き続けることにつきるわけですが、この議員活動と報酬をどう結びつけるのか、問われるところです。



高齢介護施設さわらびデイサービスセンターで施設研修

■地方行政が複雑にして多岐化しているなかで、議会がいつまでも住民代表を理由に素人制を訴えていては、執行機関に対抗することはできません。議員は住民の代表であり、住民感覚を大切にすることはもちろん必要ですが、監視機能を発揮するには専門性が必要になっています。議員は、住民感覚とそれにプラスして専門性を持つ必要があります。

■議員定数は、平成11年の地方自治法改正により、議員数は各市の議会が法で定める（法定数は小野市の場合26人と決められています）上限の範囲で定数条例で制定すると改正されています。このときから自主的に議員数を条例で定めることになり、小野市の議員は、18人と決めました。議員定数にも明確な基準はなく、県下における議員定数の少ない順は、相生市が16人、その次が小野市、加西市の18人、三木市、西脇市の20人です。



小学校のオープンスクールに参加

●今期市議会で可決された主な議案●

市長提出議案

- ・専決処分の承認（平成19年度小野市老人保健特別会計補正予算）
- ・平成19年度小野市一般会計補正予算
 - 白雲谷温泉整備事業 3億円
（温浴・交流施設）
 - 白雲谷温泉運営基金への積立 4,270万円
 - 障害者自立支援対策臨時特例交付金事業 729万円
 - 小学校国際理解推進モデル事業 55万円
 - 環境体験事業 45万2千円
 - ひょうごっこグリーンガーデン推進事業 10万円
- ・小野市税条例の一部を改正する条例の制定について
- ・国営加古川西部土地改良事業負担金徴収条例の一部を改正する条例の制定について
- ・小野市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
- ・人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

☆ 9月定例会日程 ☆

9月定例会の日程が決まりました。

- 9月10日(月) 本会議(第1日)
- 20日(木) 本会議(第2日)
- 21日(金) 本会議(第3日)
- 28日(金) 本会議(第4日)

- ・本会議の第2日と第3日は、議員の質疑や一般質問があります。
- ・議員からは、提出議案の質疑、市政全般にわたる一般質問を行い、これに対して、当局側の市長や部長が答弁いたします。

■9月定例会も「託児コーナー」を開設します。
くわしくは、9ページをご覧ください。

小野市議会は、地球温暖化防止対策、「クールビズ」を率先しています。
あしたの地球のために！



第8回「小学っ子議会」

夏休み討論バトル
市長 VS 小学6年生

■日時 平成19年8月2日(木)
午後1時30分～

■場所 小野市議会 議場
(市役所5階)

夏休みに、恒例となりました「小学っ子議会」が開催されます。市内の小学校8校から、議長役1名、質問者の議員役18名、記録・放映録画のスタッフ8名、合計27名の小学6年生と、市長をはじめ市の幹部が出席して定例議会を開きます。

質問者の議員からは

河合小「龍翔ドームの利用について」
市場小「山田の里公園」の利用拡大について

(ハイキングコース、遊具、野外活動施設を設置し、利用を呼びかけたい)

小野小「小野市商店街に公園を作って、人が集まる楽しいまちをつくりたい」
下東条小「小野市のスポーツ施設について」

来住小「安全な登下校について」
中番小「小野市民病院の拡充について」

大部小「そろばんの良さをたくさんの人に知ってもらうための取り組みについて」
小野東小「小野市の観光スポットの開発とマスコット人形について」

8項目の質問について、市長との熱心な討論が期待されます。
ぜひ、小学っ子議会にお越しくださいますようご案内いたします